

きだよ。何も無い町だけ
れどね。」

となりでお母さんは人が
通りすぎるたびに、えがお
であいさつをかわしている。

「いい町なんだなあ。」

博は、通りすぎる人々を
見つめていた。



21 交かん会

四年生の二学期のことです。よし子さんは、お父
さんの仕事のため、イタリアの日本人学校へ転校す
ることになりました。



いよいよ出発の日がきましたが、なかよしの友達とわかるのがさびしくて、
飛行機に乗っても、ちつともうれしくありませんでした。ぼんやりまどから外
をながめていました。すると、目の前に夕日で金色にそまった富士山がぼっか
りうかんで見えたのです。いつも学校の屋上から見ていたはずなのに、こん
なきれいな富士山は初めてでした。

「お父さん、お母さん、早く見て。すばらしい富士山が見えるわよ。」
よし子さんは、思わず大きな声でさげんでしまいました。

まわりの人たちも、小さなまどからのぞきこんでにこにこしていました。お父さんも、うれしそうにうなずきながら「富士は日本一の山」と小さな声で歌いました。

今度は、海が見えました。白、水色、青と、だんだん色がこくなり、まるで地図を見ているようでした。よし子さんの心もすこし明るくなって安心したせいか、いつの間にかねむってしまいました。

今日から学校です。よし子さんは、むねをどきどきさせながら校門をくぐりました。ところが入ってみると、日本にいたときと同じように友達がいっぱいたので、ほっとしました。

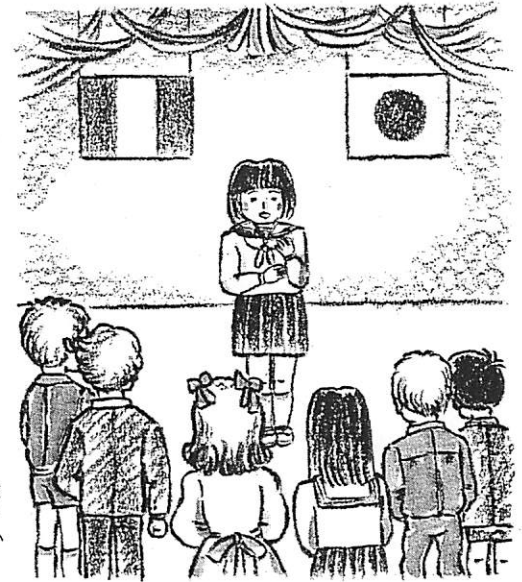
四年生は、全部で十五人ですが、みんなとてもなかよくやさしいので、すぐなれてしまいました。一年から六年までで、百人ぐらいしかいません。ですから、だれでも兄弟のように生活しています。日本から新しい友達が来ると、みんな大喜びです。

でも、せっかくイタリアに来たのですから、イタリア語の勉強も週に二時間あります。近くの学校とも年に何回か交かん会を開き、楽しいひとときをすごします。学芸会や運動会もあり、イタリアの友達も、たくさん見に来てくれます。小さいときから住んでいる人はイタリア語も上手で、毎日なかよく遊んでいます。

交かん会で、イタリアの友達が来ると、日本の子どもたちは、折紙でつるやかぶとの折り方を教えたり、上級生は習字を教えたりして日本をしようかいます。みんなで歌をうたったり、フォークダンスをしたりして、時間をわすれるほです。イタリアの先生も子どもたちも、とてもうれしそうです。

よし子さんたちのクラスでは、おたがいに自分の国のことをしようかい合いました。まず、イタリアの友達が、つぎつぎとめずらしい話をしてくれました。みんな、お国じまんを得意そうに話しています。こんどは日本のしようか

いす。とも子さんは、さくらの花のこと。かよ子さんは、お正月の話。そして、こいのぼりの話や七夕たなばたの話などが出ました。いよいよ、よし子さんの番がきました。でも、自分が言おうと思ったことをみんな友達に言われてしまい、こまってしまいました。すると、急に富士山のことが頭にうかんできました。もう半年もたっているのに、まだあの美しい富士山は、よし子さんの目にやきついています。そこで得意顔どきいで話しました。



「わたしが日本をたったとき、うすむらさきにそまった雲の上に、夕日にはえて金色にかがやいた富士山は、とてもきれいでした。今まで見た中でいちばんすばらしいけしきでした。イタリアのみなさんにも、ぜひ見せたいと思います。こんど日本にも来てください。」

話が終わると、イタリアの友達からはく手がわきました。

よし子さんは、自分の生まれた国を改あらためて考え、幸せに思いました。日本にいるときは、べつに何も感じなかったことなのに、外国に来たおかげで日本を見直すことができました。それぞれの国のよさを知り、みんな満足まんぞくそうでした。さいごに「ドレミの歌」をうたいました。日本語とイタリア語で合唱がっしょうしたのに、ふしぎによく合っていました。なんだかむかしからの友達のような気分になりました。帰りには、めいめいが作ったつるやかぶとをプレゼントして別れました。校門の前で、いつまでも手をふっていました。

よし子さんは、また日本に帰ってきましたが、今でも、あの飛行機から見た富士山をわすれることができませんでした。そして、イタリアの友達が日本に来たら、ぜひ見せてあげようと思っています。

21 交かん会

4-(6) 我が国の文化と伝統に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。(愛国心・国際理解)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

郷土や自分の生まれた国に親しむのは自然の人情である。この素朴であたたかな感情を、日本をよりよい国にしていこうとする心や国を愛する心へと、大きく育てていかなければならない。そのためには、日本の文化や伝統のよさ、すばらしさを知り、それに関心をもたせることによって、日本人の一人としての自覚と誇りを培っていくことが大切である。

〈子どもの実態について〉

四年生には、社会科での学習等を通して、日本の文化、伝統について考える素地はある。しかし、現代の優れた科学技術についてよく知っている子どもでも、そのような日本の発展を支えている文化や伝統については、十分には理解できていない。あまりにも身近にあって、生活の一部になりきっているため、かえって、そのよさに気付かないのである。そこで身の回りにある日本の文化、伝統に気付かせ、そのよさを、子どもにも再認識させたい。

〈資料について〉

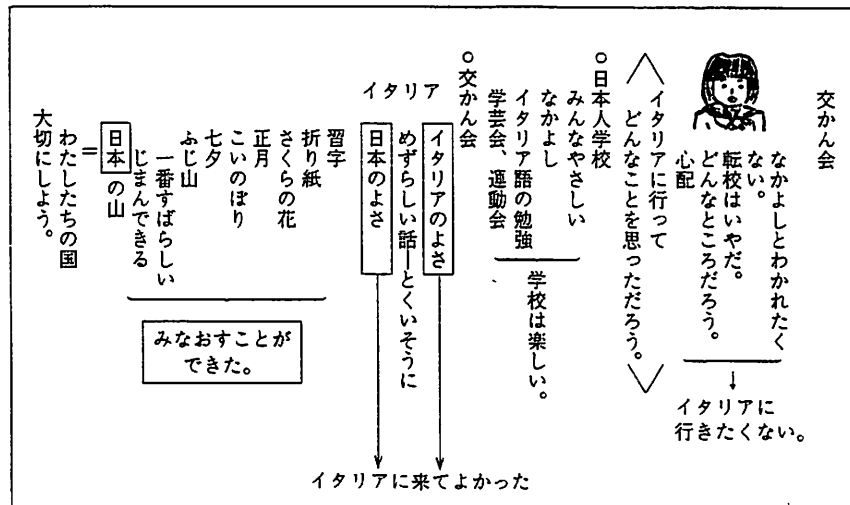
よし子は、父の転勤で、やむなく日本の友達と別れ、イタリアに行くことになった。不安な気持ちで日本人学校の門をくぐったが、待ちうけていた友達はみんな親切でほっとする。ある日、交かん会で、お互いに自分の国を紹介することになった。よし子は、出発のとき、飛行機から見た美しい富士山の話をしたのだ。

交かん会がきっかけとなって、今まで見過ごしてきた日本のよさに気付いていくよし子の気持ちに共感させたい。やむなく来たイタリア、でもそのおかげで、日本を見なおすことができた満足するよし子の姿から、自分の生まれた国についてあらためて考えてみるということの大切さを理解させ、追体験させることで、ねらいに迫りたい。

②ねらい

日本の文化や伝統のよさに気付き、大切にしようとする心情を育てる。

板書



③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 日本のよいところについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外国の人たちに日本のよいところを紹介するとしたら、みんなだったら、何の話をしますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まであまり考えたことがなかったことに気付くとともに、ねらいとする価値にかかわる意識をもつことができるようにする。(心のノート P88・89)
<p>(2) 資料を読んで、よし子の気持ちについて話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 出発の日、よし子はどんな気持ちだったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と別れるのはつらい。転校したくない。 ・ イタリアってどんなところだろう。心配だ。 ② 日本人学校に転校して、どう思ったでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人数は少ないけど、みんなといい友達になれそう。 ・ イタリアの友達もできた。学校は楽しい。安心した。 ③ 交かん会で、友達の話聞きながら、どんなことを考えていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ イタリアには、いろいろめずらしい話があるんだなあ。 ・ 自分の国のことを、とても自慢に思っているんだなあ。 ・ イタリアの友達に自慢できる、日本のよさって何だろう。 ・ さくらもお正月もみんな日本のよいところだったなあ。 ④ よし子が富士山の話をしたのは、どう思ったからでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番すばらしい景色だったから、みんなにも見てほしい。 ・ 日本のよさとして、誰に自慢してもはずかしくない。 ・ あのすばらしい富士山は、私たちの国、日本の山なんだ。ぜひ、みんなに紹介して知ってもらいたい。 ⑤ イタリアの友達からの拍手を受けて、どう思ったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ うれしい。富士山を誇りに思う気持ちがわかってもらったのだ。イタリアの友達が誇りに思うものも大事にしよう。 ・ 日本にいるときは考えたこともなかったけど、日本には、いろいろなよさがある。日本っていいなあ。 ・ イタリアに来たおかげで、イタリアと日本、両方のよさに気付くことができた。来てよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やむなく転校するという、よし子の不満や不安な気持ちに共感することができるようにする。 ・ 安心したよし子の気持ちが理解できるようにする。 ・ 交かん会をきっかけに、イタリアのよさ、日本のよさについて考え始めていることに気付くことができるようにする。 ・ 飛行機から見た富士山の美しさが強く心に残っていたこと、その美しさを誇りに思う気持ちが、日本を誇りに思う心へと育ちつつあることに気付くことができるようにする。 ・ 自分の生まれた国について、あらためて考えなおしてみることや、お互いの国のよさを認め合うことの大切さを理解することができるようにする。
<p>(3) 自分たちは日本のよさをどう思っていたか、考え話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ みんなだったら、交かん会で、何について話しますか。よし子がしたように日本についてあらためて考えてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ さっきは思いつかなかったけど、祖父のつくっている和菓子の話をしたい。何十年も修業して、心をこめてつくっているからとてもおいしいし、きれいだ。 ・ そろばんの話を。もっと練習して、いつか外国へ教えに行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもにとって生活の一部である将棋や珠算、お祭りなども、日本のよさとして誇るに足るものであることに気付くとともに、大切にしていこうとする意欲をもつことができるようにする。
<p>(4) 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化や伝統の継承に努力している人の話をし、実践への意欲をさらに高めることができるようにする。